

ホーム > 今日の富士山 > 富士山日記 > 日本三大奇祭～吉田の火祭り～

2016.08.25

日本三大奇祭～吉田の火祭り～

富士山日記第52号（執筆者 環境省 富士五湖自然保護官事務所 小西）

皆さん、日本三大奇祭を知っていますか？ 諸説ありますが、一般的には

- 御柱祭（長野県諏訪市）
- なまはげ柴灯祭（秋田県男鹿市）
- 吉田の火祭り（山梨県富士吉田市）

とされています。

「御柱祭」は大きな木に大勢の人がまたがって坂を下る「木落とし」の映像をTVで目にする事も多く、ご存知の方も多いかと思えますし、なまはげもよくTVで見かけます。

それに比べると「吉田の火祭り」というのは全国的な知名度はまだあまり高くないのではないかと思います。

400年以上の歴史を持つ祭り

「吉田の火祭り」は毎年8月26・27日に富士山の山じまいの祭りとして富士山の麓である富士吉田市の北口本宮富士浅間神社と諏訪神社で開催されています。

400年以上前からおこなわれていたと考えられていて、国指定重要無形民俗文化財にも指定されています。



奉奏される太々神楽（27日）

<1日目> 70本以上の松明が夏の夜を焦がす

26日は神社を出た2台の御神輿が参道を練り歩き、御旅所（神輿が休憩・宿泊する場所）に安置されたのち、参道に置かれた70本以上の大松明に点火されます。

松明が夜空を焦がす様子はとても幻想的です。



[今日の富士山](#)[富士山日記](#)[ライブカメラ](#)

2日目は神輿が神社に戻り、すすきの玉串を持った氏子や一般の人が2基の神輿に従って境内を勢いよく7度回り、祭りの熱気は最高潮に達します。その後、神輿が戻され厳かに終了します。

また、火祭りで重要な役割を果たす地元の青年で構成されている「祭典世話人」達が何か月も前から準備を重ねた後、その重責を果たし感極まって涙している姿は感動的です。

火祭りという名と松明のため1日目の方が有名ですが、「すすき祭り」とも呼ばれている2日目の方が良いという地元の人も多いようです。特に神輿をかつぐことができない女性が多く参加します。



富士山と共に生きてきた文化をいつまでも……

400年以上前から続く祭りを見ると改めて富士山が文化・歴史の源であることを感じます。これからも自然はもちろんのこと、富士山にまつわる様々な文化・歴史を大切にしていきたいです。

[吉田の火祭り特設サイト \(ふじよしだ観光振興サービス\)](#)



富士山における適正利用推進協議会

(事務局：環境省富士箱根伊豆国立公園管理事務所、山梨県、静岡県)

[問い合わせ先一覧](#)[サイトマップ](#)[リンク集](#)[サイト管理者・著作権・リンクについて](#)[富士山における適正利用推進協議会について](#)

Copyright (C) 2016 富士山における適正利用推進協議会 All rights reserved.